**MB&F – コンセプトラボの誕生**

2005年に設立されたMB&Fは、世界初の時計製作専門コンセプトラボとして傑出した創造性を誇ります。ブランドはこれまでに20種類以上の秀逸なキャリバーを開発し、それらをベースにして製作されたオロロジカル・マシンとレガシー・マシンは高い評価を得てきました。そして現在も、創業者でありクリエイティブディレクターでもあるマキシミリアン・ブッサーのビジョンに基づき、従来の時計作りの殻を破ってキネティックアートを思わせる立体感豊かな作品を生み出し続けています。

マキシミリアン・ブッサーは15年間にわたり高級腕時計ブランドをマネージング。2005年ハリー・ウィンストンのマネージングディレクターの職を辞し、MB&F（マキシミリアン・ブッサー＆フレンズ）を創立しました。MB&Fは、ブッサーが尊敬し、働く喜びを分かち合うことのできる才能あるオロロジカル職人を集め、先鋭的なコンセプト・ウォッチのデザインと小規模生産を行う芸術的なマイクロエンジニアリング・ラボです。

2007年、MB&Fは初のオロロジカルマシーンであるHM1を世に送り出しました。HM1の彫刻の様な立体的なケースと美しく仕上げたエンジン（ムーブメント）は、その後のブランド特有のオロロジカルマシーンの基準となりました。全てのマシーンは時を告げるためというより、時を語るマシーンなのです。こうして製作されたオロロジカルマシンでは、宇宙（HM2、HM3、HM6）や大空（HM4、HM9）、道（HM5、HMX、HM8）、動物王国（HM7、HM10）を探索するマシンがイメージされています。

2011年には、MB&Fはラウンドケースのレガシーマシン・コレクションを発表。これらはMB&Fにとってよりクラシカルなものです。現代的な芸術品を創作するために往年の偉大な時計製造革新者とは異なる視点で複雑機構を解釈し、19世紀の腕時計製造の卓越性への敬意を払っています。LM1 及びLM2に続いて発表されたLM101は、全て自社開発したムーブメントを搭載する初のMB&Fマシン。そして、コレクションの幅をさらに広げるLM パーペチュアル、LM スプリットエスケープメント、LM サンダードームの登場。2019年は史上初のレディース用MB&Fマシン「LM フライングT」の制作によりターニングポイントを迎えました。2021年には、MB&Fはレガシー・マシン誕生10周年を記念してLMXを発表。MB&Fは現代的で型破りなオロロジカルマシーンと、歴史からインスパイアしたレガシーマシンを交互に発表しています。

MB&Fの「F」が「フレンズ」（Friends）を表していることから分かるように、優れたアーティストや時計職人、デザイナー、様々な分野の製造業者をブランドにとっての「友人たち」と考え、協力関係を築くことはごく自然な成り行きでした。

そうした姿勢がブランドにもたらしたのが、パフォーマンスアートとコラボレーション作品という新たな2つのジャンルでした。パフォーマンスアート・モデルは、創造性豊かな社外のフレンドがMB&Fのマシンをベースにしてアレンジを加え、新たな形で表現した作品。一方のコラボレーション作品は、腕時計ではなく別のタイプのマシンで、MB&Fのアイデアとデザインに基づいて独創的なスイスのマニュファクチュールが設計、製造を行います。レペ1839と共同で製作されたクロックなど、コラボレーション作品の多くは時間を知らせるマシンとなり、リュージュやカランダッシュとのコラボレーションでは別の種類のメカニカル・アートが創作されました。

ブッサーは、こうして誕生したあらゆるマシンにその魅力を発揮できる舞台を与えるため、従来型のブティックに陳列するのではなく、他のアーティストによる多彩なメカニカル・アートとともにアートギャラリーに展示することを思いつきました。このアイデアにより、ジュネーブに最初のMB&F M.A.D.ギャラリーが設立され（「M.A.D.」はMechanical Art Devices：メカニカル・アート・デバイスの略）、その後台北、ドバイ、香港にもM.A.D.ギャラリーがオープンしました。

MB&Fがこれまでに成し遂げた革新的な成果に対しては、いくつもの権威ある賞が与えられてきました。いくつか例を挙げると、名高い「ジュネーブ ウォッチ グランプリ」においては、その年の最も優れた時計に授与される最高賞「金の針賞（エギュイユ・ドール）」を含めた、9つものグランプリを獲得しています。2022年、LM シーケンシャル エヴォが「金の針賞」を受賞。またM.A.D.1 レッドが「チャレンジウォッチ賞」を受賞しました。2021年にはLMXが「ベスト メンズ コンプリケーション賞」を、そしてLM スプリットエスケープメント エディ・ジャケ「Around The World in Eighty Days」が「アーティスティック・クラフト賞」を受賞。2019年にはLM フライングTが「ベスト レディース コンプリケーション賞」を受賞し、2016年にはレガシー・マシン・パーペチュアルが「ベスト カレンダー ウォッチ賞」を、2012年にはレガシー・マシン No.1が「パブリック賞（時計ファンによる投票）」と「最優秀メンズウォッチ賞（プロの審査員による投票）」をダブル受賞しました。また2010年には、HM4サンダーボルトで「最優秀コンセプト＆デザインウォッチ賞」を受賞。さらに2015年には、HM6スペースパイレートが国際的な「レッドドット・デザイン賞」において最優秀賞である「レッドドット：ベスト・オブ・ザ・ベスト賞」を受賞しています。

**MB&F – 現在までの足取り**

**2022年：**MB&Fの17年の歴史の中で20番目のキャリバーとなる、LMシーケンシャルEVOが「ジュネーブ ウォッチ グランプリ」の最高賞「金の針賞（エギュイユ・ドール）」を受賞。また、MB&FのM.A.D.ギャラリーの新しい建築アイデンティティが確立され、「MB&Fラボ」という新しいアイデンティティから生まれた新たな販売形態をシンガポールとパリで展開した年でもあります。

**2021年**：MB&Fは、レガシー・マシン コレクションの10周年を記念して、オリジナルのLM1に見られる最も印象的な特徴である、回転する半球状のパワーリザーブインジケーターなどを再現した「LMX」を発表。時計メーカーのL'Epée 1839とのコラボレーションも続き、14番目となるテーブルクロック「Orb」を発表しました。またMB&Fは、ブルガリとのコラボレーションにより、LM FlyingTのカラフルな2バージョン「アレグラ」を製作しました。

**2020年**：11番目となるオロロジカル・マシン「HM10ブルドッグ」発売。その数ヶ月後に、同じ独立系ブランドのH.モーザー社との双方向コラボレーションが実現し、「LM101 MB&F x H.モーザー」と「エンデバー・シリンドリカル トゥールビヨン H.モーザー x MB&F」の2つのモデルが発表されました。年末には、LMパーペチュアルが「LM パーペチュアル EVO」で新たな自由を得て、さらに快適な装着感と堅牢性を実現します。

**2019年：**MB&Fは、SIHHにおいてl’Epéeとの10回目の共同制作となるMEDUSA（メデューサ）を発表。史上初のレディース用MB&F「レガシーマシン フライングT」の制作により、ターニングポイントとなった年でもある。MB&Fは、世界最速のトリプルアクシス（3軸）トゥールビヨン、レガシー・マシン サンダードームをご紹介します。

**2018年：**ステファン・サルパネヴァとの2度目のコラボレーションによるパフォーマンスアート作品、ムーンマシン2の発表から始まるMB&Fの一年。またHM9「フロー」が発表され、香港に新しいM.A.D.ギャラリーがオープンした。

**2017年：**MB&FはSIHHにて、水中をテーマとしたオロロジカルマシン N°7 アクアポッドを発表。レガシー・マシン・スプリットエスケープメントは10月に発表された。

**2016年：**MB&Fはジュネーブの名声高い「ジュネーブサロン（SIHH）」への参加を促される。メルヒオールの弟分であるシャーマンが誕生し、SIHHにて披露。その数ヶ月後、バルタザールがロボットクロックのラインアップに加わる。1月には、ドバイにて3つめのMB&F M.A.D.ギャラリーがオープン。また「カランダッシュ」とMB&Fの共作である、アストログラフ・ペン、および10月に発表されたHM8カンナム（Can-Am）が披露された。

**2015年：**MB&F 創立10年を記念し、HMX、レペ1839とのコラボレーションによる卓上時計「メルヒオール」、そしてとミュージック・マシン3を創作。さらに、MB&Fと時計職人ステファン・マクドネルが、LMパーペチュアルでパーペチュアルカレンダー機構を再解釈。

**2014年：**初めてインハウスで開発したキャリバーを搭載した新マシン、HM6 スペースパイレート＆レガシー・マシン101の2機を発表。台湾の台北市に2つ目のM.A.D.ギャラリーがオープン。

**2013年：**2つ目のレガシー・マシン（LM2） が誕生。HM3をHM3「メガウィンド」として再設計。

また2013年には、MB&Fとオルゴールメーカー、リュージュとの初のコラボレーションを行う。宇宙船のようなデザインのオルゴール3部作の第1作目として、ミュージック・マシン1を発表。

**2012年：**70年代のスーパーカーにインスピレーションを得たHM5を発表。40年の歳月を経てスーパーカーが蘇った。

**2011年：**レガシー・マシンNo.1が、19世紀の時計製造を讃える新ライン、レガシー・マシンのデビューを飾る。同年、初のMB&F M.A.D.ギャラリーがジュネーブにオープン、そのコンセプトを「オロロジカルマシンとメカニカル・アート・デバイスの極みが一堂に会する場所」とした。

**2010年**：MB&Fにおいて今日最も革新的なウォッチ、HM4サンダーボルトが、「ジュネーブ・ウォッチ・グランプリ（GPHG）」を獲得。また、HM3の2つのバリエーションとして、HM3「フロッグ」、およびジュエリーブランド、ブシュロンとの共作によるJWLRYMACHINE（ジュエリーマシン）を発表。

**2009年：**オロロジカルマシン No.3「サイドワインダー」、「スタークルーザー」とともに、アイコニックなHM3シリーズを発表。

**2008年：**オロロジカルマシン No.2が、その独特の形状とモジュラー型構造で高級時計の世界に革命を起こす。

**2007年：**MB&F初のオロロジカルマシン、HM1を発表。

**2006年：**初めてのマシンを開発しながら、マックス（マキシミリアン・ブッサー）は世界各地を旅し、彼の事業の一端を担う将来の販売パートナーを説得。

**2005年：**大手ウォッチメーカーにおいて数十年に渡り、企業という枠組みの中で時計作りを学んだマキシミリアン・ブッサーは、型破りな「MB&F」という反乱を起こす。